

令和7年度 学校評価表

三次市立塩町中学校

学校教育目標:挑戦と貢献 ～主体的に学び、他者と協働して課題を解決していく生徒の育成～

A 100～80% B 79～60% C 59～40% D 39～0%

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	成果指標	目標値	中間達成値	最終達成値	分 析	今後の改善策
確かな学力の育成	主体的な学びの創造による学力の向上	基礎・基本の学力の確実な定着	・学習評価の充実による学びの質的向上 ・教科等横断的な単元開発による授業改善の充実	国・市の学力調査の平均正答率	国、市の平均値以上	A		・3学年の全国学力学習状況調査における本校生徒の平均正答率は、国語58%、数学51%であった。県の平均正答率が国語55%、数学47%、国の正答率が国語54.3%、数学48.3%であった。また、理科はオンラインで実施され、平均RTスコアが本校生徒516、県の平均が496、国の平均が503と、国語、数学、理科いずれも県・国の正答率を上回った。 ・全ての全ての教科が国及び県の平均正答率を上回った。達成値100%	・みよし結芽人育成研修会の研究授業等での研修の結果を生かし、授業改善を進める。 ・教科で学んだことや学校行事や生徒会行事と有機的な関連を図りながら、SDGsの視点を取り入れた横断的な単元開発を継続する。 ・3年生は受験に向けて学力を高める。1、2年生については1月に行われる三次市学力到達検査に向けて、基礎・基本の指導に力を入れる。
				教科の学習・授業が「よくわかる」という意識を持つ生徒の割合	全学年・全教科80%以上	B		・「授業がよくわかる」とアンケートに回答した生徒は、全教科平均で87.0%、80%を下回っていたのは、技術の78.3%。全教科平均の数値としては昨年度(86.3%)とほぼ同じである。特に、全く当てはまらないと回答した生徒(4.3%)について課題を把握し、引き続き取り組み必要がある。 ・「授業がよくわかる」が80%を超えた教科数/全学年・全教科数=27/30(達成値90%)	・各教科の定期試験で、リーディングスキルを活用する問題を出題することで、学習評価の指標の一つとする。
		育成すべき資質・能力の向上	・達成された姿の明確化 ・行事の充実と地域／先端体験	自校の質問紙	肯定的評価80%以上	A		・生徒会活動における目指す資質・能力の共有化を図る。体育祭自校生徒質問紙調査より肯定的回答「協働性」99.2%、表現力95.4%、主体性93.0% ・全ての全ての項目で肯定的評価80%を上回った。達成値100%	・文化祭等の行事に取り組む中で人間関係を深め、協働学習の質的向上を図る。総合的な学習の時間を中心にさらに地域に学ぶ機会を取り入れていく。
				総合質問紙調査(表現力、協働性、主体性)	評価項目トータル平均が上回る及び母集団平均以上	B		・全国比i-checkより「表現力-0.7pt、主体性-1.9pt、協働性-0.3pt、対話・話し合い価値肯定+2.9pt」 ・評価項目トータル平均を上回った(達成値100%)、4項目のうち母集団平均以上1項目(達成値25%) 合わせた達成値(100+25)/2=62.5%	・教科・領域・行事等を塩中タイムで「振り返り」を行い、学習内容の理解度や思考の変化を捉えさせる。 ・コミュニティ・スクールを核に、生徒と地域との協働の場を通して生徒の達成感を高める。
豊かな心の育成	生徒の規範意識の醸成と望ましい集団づくりの推進	生徒指導上の諸課題の解決	・個別最適な対応を見据えた積極的生徒指導の推進 ・生徒が安心して過ごすことのできる環境整備 ・関係機関との積極的な連携	年間30日以上欠席がある生徒数	1年:前年度比減 2、3年:新たな長期欠席者0	B		欠席30日以上生徒について ・今年度1年生1名(昨年度1年生1名)となっている。 ・1年生で前年度、長期欠席だった生徒が2名登校できるようになった。 ・2年生で新たに1名の長期欠席者。 ・1年生は前年度比減とはならなかったが増えていないため達成値50%、2、3年生は新たな長期欠席者が1名発生したため達成値0%、合わせて(50+0)/2=25%。ただ、小学校で不登校であった児童2名が中学校で登校できるようになった。 トータルで長期欠席者を1名減らすことができたため、達成値(25+100)/2=62.5%としている。	・学年会を中心とした、家庭連携や本人との人間関係づくりを継続していく。 ・リモートでの授業参加など、適切な学習支援を継続する。
		生徒の自治活動の充実	・生徒会の提案による課題解決の取組 ・学校行事、地域行事への生徒の積極的参画の支援	自己肯定感・自己有用感に肯定的意識をもつ生徒の割合	全学年80%以上	A		・「自分には、よいところがあります。」「81.4% ・「自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。」「72.7% ・「努力すれば、自分もたいのことはできると思います。」「87.6% ・3項目のうち、80%を超えた項目2項目 達成値66.7%	・生徒会行事や学校行事を中心として、生徒の自己肯定感が上がるような活動を仕組んでいく。 ・日々の生活で、肯定的な評価や生徒同士のつながりを大切にすることを増やしていく。
健やかな体の育成	生活習慣の改善と体力の向上	基本的生活習慣の確立	・生活調査の実施 ・小中一貫保健主事部会と連動した授業の実施	SNS、ゲーム等時間3時間未満及び家庭学習の時間が60分以上の生徒の割合	前年度比増加	B		・生活アンケートでは平日のメディア、ゲーム時間3時間未満の生徒の割合は56.5%(昨年度末54.6%) ・生活アンケートでは平日の家庭学習時間が60分以上の生徒の割合は45.3%(昨年度末44.3%) ・生活アンケートとは別に中学校区でもメディアアンケートを実施した。結果をまとも夏休事前にも全生徒・全保護者に配信した。 ・前年度比メディア時間、学習時間とも目標を達成したが、依然として数値が低く、改善が必要なためBとしている。	・各学年、各学級における日々の指導や声掛けを継続して行い、中学生としての生活を示していく。 ・懇談やたより等を通して家庭への啓発を行う。
		基礎体力の向上	・体育の授業での体づくり運動 ・体力テスト等の結果分析と課題の焦点・重点化	体力・運動能力調査の結果を上回る項目70%以上	昨年度全国平均を下回っていた項目のうち、昨年度の結果を上回る項目70%以上	A		・昨年度全国平均を下回っていた種目が、24種目(各学年8種目)中、男子16種目、女子12種目であった。そのうち、昨年度と今年度の同学年を比較した結果、昨年度を上回った種目が、男子12種目(75%)、女子7種目(58%)であり、全体では68%となった。 ・達成値 68%/70%=97.1%	・今年度課題となった種目を改善できる運動を保健体育の授業の導入等で取り入れる。また、掲示物を失し、自己の体力に興味・関心を持てるような取組を行う。
信頼される学校づくり	成果の発信、服務管理による学校信頼度の向上	教育成果の発信	・各種通信やHPによる定期的な発信 ・授業、行事による学校公開の実施	「子供を学校に連れてきてよかった」と思う保護者の割合	全体90%以上	A		・保護者対象の学校生活アンケートでは、「本校に、子どもを連れて良かった」と肯定的に回答した割合が97.9%であった。積極的な情報発信についての肯定的回答割合は89.8%。体育祭に生徒が意欲的に取り組んでいたと肯定的に回答した割合が98.9%(達成値)あり、教育成果の発信についても目標を達成することができた。	・保護者対象の学校生活アンケートで肯定的回答が低かった「何れの夢や当面の目標」、「毎日の家庭学習」については、各学年における進路学習の実施、各教科における適切な家庭学習課題の提出の実施及び指導を行う。
		業務効率化の推進	・各分掌による提案による校務運営 ・在校時間縮減のための業務の効率化	不祥事、職員の不調の発生数	年間0件	B		・該当生徒、保護者への対応を迅速に行い、理解を得ているが、不祥事につながりかねない事案が複数件発生している。 ・職員のメンタル不調の発生数は0(達成値)であった。	・起こった事案の再発防止策を行うとともに、引き続き、不祥事防止研修、不祥事防止委員会における不祥事防止の取組を計画的に実施する。また、何でも話し合える教職員集団の醸成に向けての取組を継続して行っていく。